

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ふれあい秋篠
(ユニット名)	A あの町
所在地 (県・市町村名)	奈良市中山町
記入者名 (管理者)	長谷川 妙子
記入日	平成 20 年 11 月 11 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>グループホームふれあい秋篠の基本理念として、『ゆったりと楽しく自由にありのままに、残された力で暮らしに喜びと自信を持ち、暮らしのあらゆる場面で適度であること』と掲げている。その実践として、少しでも施設で暮らしているのではなく、家庭で暮らしているような思いになってもらうために、地域の行事に参加し(地域の神社への初詣 とんど焼き 盆踊り 芸能大会など)、地域の幼稚園と交流し運動会や園児に館に来てもらっている。また、運営推進会議を地域の会館を利用して、グループホームとして地域にとけ込めるように努力している。</p>	<p>少しずつ地域の皆さんにグループホームの事を理解して頂けてきている。今後もグループホームとしての理解と協力を働きかけながら、地域の認知症の方へ何が出来るかを示していきたい。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>毎火曜日「健和会理念」の唱和をし、職員の意識を高めている。また、毎日のミーティングにおいて、グループホームとしての基本理念に沿った行動について注意啓蒙を促している。</p>	<p>利用者中心の医療・看護・介護とは何かを日々追求しながら実践していきたい。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>グループホームふれあい秋篠の機関誌『あきしの』を年4回、家族、地域、関係者へ配布し、ふれあい秋篠の理解して頂くように努めている。</p>	<p>現在の機関誌は、グループホームの行事が中心であるが、利用者山だけではなく、グループホームとしての役割を含めた機関誌にしていきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>自治会に加入している。玄関は常に開放して、いつでも気軽に立ち寄って頂けるようにしている。利用者の安全管理には十分注意している。職員の中に地元の方を採用し地域とのパイプ役を果たしている。</p>	<p>危機管理の徹底</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>自治会には加入している。万年青年クラブの方から声を掛けていただき、カラオケ大会に参加した。自治会行事や自治会総会などに参加している。</p>	<p>今後は地域の他のグループホームと連携して、グループホームからイベントを開催し、その中で認知症のこの理解を広めていきたいと考える。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議の中で、包括支援センター、他のグループホームと共に話し合っている。どんな働きかけをすれば地域の方々に無理なく入っていけるかを話し合い、人形劇などを通じて認知症の理解を深めてはどうかとの意見もあり、進めていたところであるが、地域包括センターの管理者が変更になり、又今後に繋げていきたいと考える		話し合った内容を現実化させていきたい。例 人形劇をして認知症の理解を働きかけ、在宅者への関わりの相談を受ける。等。地域性があり、家族の認知症を認めるには難しいものがある事も理解し考慮する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各自が自己評価をする。前年度の評価内容を全員で再確認し、改善事項の話し合いを行っている。私達の対象は、グループホームだけでなく、地域の認知症の方に何が出来るかも考えていく必要が有ることを話している。		新人職員が理解できるように努める。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、サービスの状況報告、事故報告、今後の地域への取り組みなどを話し合っている。		地域包括支援センター、市職員等々と連絡報告が深まるようにかかわりたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議において、意見交換をしている。		現在は、運営推進会議への出席がなかなかしていただけない状況なので、参加していただけるような働きかけが必要と考える。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用者の中には、身寄りがなく、顔も知らない親戚を頼らなければいけないこともできた。財産の譲渡など勝手にされている様子も見られ、成年後見人制度のことを伝えて、正しい財産管理をお願いしたこともある。現在はそのような方は居られない。		今後も利用者の身にどのようなことが降りかかるか分からない。良くこの制度を勉強し、機会あるごとに慣習に参加したい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	明らかな虐待が無くても、日常のかかわりの中で虐待ではないかと思われる言動などがないか、日ごろから話し合っており、虐待防止に努めている。		虐待防止は、職員教育ともなり、明るく働きやすい職場には虐待は生まれない。しかし、職員も生身のからであることを認識し、虐待にいたらないために精神的ケアの努力を惜しまない。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には、運営規定、重要事項説明書、契約書を声を上げて読み上げ理解していただいている。また、細かい説明を行い、理解していただけたかなど確認している。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情受付については、入居時に何度も読み上げ説明している。日常では面会時に必ず声を掛けて、コミュニケーションを密にしている。館長直接にはなかなか苦情を言われないことが多いので、職員の会話の中でどう言われてのかを良く聞き九条と思われることについては、さりげなく聞き返している。その中で浮かび上がることもある。</p>		<p>苦情については、いい安い雰囲気を作る努力をさらにしていく</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月の領収書と請求書を送付する際に、個々の状況を、写真入で報告させていただいている。</p>		<p>報告の内容が、症状のこになり易いので、気をつける</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議において、どんなことでも出してもらえるようにと、働きかけている。</p>		<p>今後も意見、不満、苦情を言えるように働きかけていく</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ケア会議、毎日のミーティング時、また、個々の面接等で、意見を聞くようにしている。また、意見として出たことは、とりあえず取り上げて、始めてみた上で、会議で話し合うようにしている。</p>		<p>職員の意見は、どんなに些細なことでも、取り上げて反映させていく姿勢で今後も進めていく</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>状況に合わせて、どの職員がどうするかは大体決めている。その時にあわせて調整できるようにしている。また、できないときは、奈良東病院に応援を依頼して対応できる態勢がある</p>		<p>今後も日ごろから、どのようなことがあるか、職員個々の状況を知り、大体の予測ができるように努めて、急な事態にも対応できるよう職員教育をしていく。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>今年は、常勤者が次々に移動や退職が重なり、新人ばかりが勤務する事態にもなったが、パートと組み合わせで顔馴染みをつくり、利用者への影響を配慮した。</p>		<p>新施設への移動で職員が変わり、利用者への影響を心配したが、新人職員もカリキュラムどおり慣れてくれた。職員が仕事になれることが利用者への負担が軽減できることを踏まえて、今後も新人教育をしていく。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人教育、管理者研修、リーダー研修等のカリキュラムに合わせて、参加をしている。		それぞれの職員の質の向上に向けて研修参加をする。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の他のグループホームと合同の運営推進会議を開催している。		ネットワークとして相互の関係を深めていく。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者が自由に運営できるように協力支援を惜しまない。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	5年勤続ハワイ旅行。報奨制度を取り入れ、功績者の表彰をしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居までにご本人自身が館にお出でになることを勧めている。来館時に館の印象などをお聞きして、気に入っていただけたかどうかを確認している。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族が話したいこと、伝えたいことをできるだけ時間を掛けて聞くようにしている。些細なことでも連絡して欲しいことを伝える。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けても、応じられない場合は、他のグループホームの紹介、例として、ふれあいの里のサービス内容を説明、いろいろなサービス利用の内容を紹介している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	契約を交わすまでの間、いつでも来館して自由に参加していただけるようにと説明している。		現在までにお試し入居者はいないが、必要なら応じられる体制にしておく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員の言動に注意し、言葉賭けなど、介護されていると感じる言葉使いをしない工夫をしている。日常生活の片付け、掃除等を一緒にしていただき、力を貸していただくようなかわりに努めている。		ともすれば「介護してあげている」態度になるため、常に話し合いが必要になる。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力がなくて、介護はできないことを伝え、できないところは無理をしないように、できるところは協力していけるように伝えている。		ともすれば職員が介護をして当たり前の雰囲気になりかねないので、注意する。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者の症状により、家族が精神的に壊れていることが多く、その修復には認知症の理解が必要であり、繰り返し繰り返しわかり易く家族に伝えている。少しずつ家族も認知症が理解でき家族としての役割を担っている。		家族が一番の理解者であらねば、認知症の人を支えられない。また、家族が理解できれば、そこから周囲への認知症の理解も広がっていくと考える。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	グループホームに入居されても、お友達や、お知り合いの方の面会はできるだけ来ていただくように支援している。迷惑になると思われている方もおられるので、迷惑でないことを伝えて、平常と変わりなくかかわってあげて欲しいことを伝えている。		ご本人の周囲の方々が認知症の理解ができれば、地域の支援に広がる可能性が高いと考える。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士のかかわりを深めるには、グループでのかかわりを通して、お互いを認識し、なじみの関係づくりが大切になる。いつも一緒、あの人ができるから私もと、相乗効果も期待できるような声掛け、見守りを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ケアハウスに入居されても、今後症状が悪化すれば、またグループホームを必要とされる可能性があり、総合相談窓口を通して情報交換をしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お誕生日などは、受持職員が個々に対応して、どう過ごしたいかを聞きできるだけ添えるようにしている。例 御寺参りがしたい どんなどこの寺かを聞きその寺に参拝する。帰りには、お茶をして、プレゼントを購入して帰館する。など 家族にも声を掛けて、家族の協力も得る。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式で利用者の情報整理を行い、把握している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居1ヶ月は経時記録で、日常の生活リズムを把握する。センター方式で記録の整理を行う。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居1ヵ月後に、情報を整理しケアプランを立案、サービス担当者会議を実施ケアプランの提示をおこない、家族の納得を得ている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	受持ちケアが、フローシートの評価を基にケアプランの評価を行い、変化が生じた場合は、課題分析を行ってケアプランの見直しを行う。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録、およびフローシートの記録および評価を基にしてケアプランを見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族からの希望にはできるだけ柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地元自治会や消防団の協力を得て、日ごろの防災に努めている		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本煮の希望があれば必要に応じて、リハビリ、訪問看護等のサービスを利用している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターと協力して、地域の認知症の相談窓口を開けるように、話し合っているが、時間と担当者の継続が難しく難航している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個人の希望のかかりつけ医を受診している。地域の中にあり、受診の支援をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医では困難な認知症状に対しては、奈良東病院の神経内科の受診を進めている。また、希望の医療機関への紹介も行っている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が看護師であり、24時間医療連携を行っている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	在宅対応が可能となれば、早期に退院を促し、グループホーム内での生活に戻っていただくようにしている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りマニュアルに従って、看取りを実施している。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	看取りマニュアルに従って、看取りを実施している。		
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替え時には、退居サマリーを作成し情報提供を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>接遇教育を徹底し、特に、言葉使いには注意をしている。ぞんざいな言葉使いには、どんな心で接しているかを分析して振り返りを行う。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>入浴などどうしても入りたくない場合、本人の希望に従って無理に進めないでいると、入りたいときには、自ら入浴すると行ってこられる。本人の判断ができるときは任せている。(家族の納得の基で)</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>こうあるべきは何も無い。自由であるが一日の生活パターンは大体決まっている。それに合わせられる方は合わせて、合わせられない方は、その状態によって見守っている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>一応移動美容室が来館するが(2ヶ月に1回)、家族と外出時にカットされたりしている。大体は、移動美容室が安くてきれいにしてくれるので利用されている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>献立には、好みをたずねたりして、献立に生かしている。献立は常勤が立てている。食事の準備や配膳、後片付けは利用者と共に行う。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>お酒を楽しむ方は少ないが、100歳の男性は家族が時々ウイスキーを持ってきて、楽しんでいる。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	できるだけトイレ誘導で対応している。また、失禁パンツなどを利用して、様子を見ていきながら、排泄で自尊心が傷つけられないように支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	大体は、昼間に入浴していただくが、希望があり可能であれば夜も入浴できる。見守りで入れる人に限る。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居室の出入りは自由で、20分以上居室で居られる場合、その時々に応じては、他の利用者と交流できるように声掛けを行う。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カラオケの好きな方、百人一首の好きな方、お花の好きな方、外の景色を見てすごすのが好きな方、お買い物で甘いものが大好きな方、などなど一人ひとりのお好きなことや、生活歴の中でどんな役割を果たしてこられたかによって、声掛けの方法や、お話の内容を心得てかかわっている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を大切に持つことができる方には、ご家族と話し合いの上で財布の一定の金額を入れていただき、お買い物の際に使用した金額はノートに記入している。財布をしまい忘れて大騒ぎする方には、事務所で預かり、毎日確認にこられている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一日に1回は外気に触れるように近所の公園や、ホームの周辺を散歩しながら、四季折々の風景を見て語らいをしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外食、見物、バス旅行などの年間計画をたてて実施している。家族に呼びかけ参加できる方には、参加して一緒に楽しんでいただいている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が書ける方には、はがきや切手を購入したり、電話はいつでも自由に掛けられるようにしている。家族と時間の設定をして、家族が電話攻撃にあわないように調節している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	利用者の関係した方には確認のうえ、いつでも来ていただけるように伝えている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、『身体拘束ゼロの手引き』を参照している。身体拘束は言葉書け一つにもあることを認識し、指示命令をしない言葉使いに努めている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は夜間の防犯以外には掛けていない。玄関から出て行かれても、出て行かれたら確認できる、チャイムや、窓などから職員は確認して、それとなくついていける支援をしている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	安全確認は、ケア中も常に目配り、気配りを行い、居場所確認をする見守り方を身に着けている。また、9時 13時 17時 21時に館長へ安全確認のワンコールをして安全確認をしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の身に危険でなければ、必要なものが移動していてもなくなっても、大体どなたのどの行動でそうなっているかを職員が把握している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止マニュアルを普段から確認し合っている。毎月1日を防災を考える日として、日ごろの安全を確認している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	毎月1日を防災を考える日と定め、その中で、常に急変時の対応は確認しあっている。また、応急手当についても、新人研修の中で受けている。職員に救急救命士がいるので、救急対応について、3ヶ月に1回は再認識している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を職員全員が実施確認している。緊急時に地元の自警団の協力を得るように自治会加入をしている。地域の方々に常日頃からコミュニケーションを深めている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居4年目になる方が多く、状態が低下して変化してきており、その変化についてはその都度担当者会議を行い、状態の変化についての理解と協力を求め、利用者にとって何が一番良い方法かを考えて対応している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員の観察力を高める研修を行い、気付くことのポイントを研修している。また、申し送りを密にして、サインを入れ共有できたことを確認している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効果や副作用については、常日頃から指導している。また、個々のお薬情報を確認して服薬支援を行っている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の方には、水分補給を多くしたりして、排便の調子を確認している。また、献立には、野菜や繊維分の多い物を努めて配慮するようにしている。現在のところ便秘困難者はおられない。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアは毎食後にしている。自分で出来る方は、声掛けを行い、出来ない方は、一緒にしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取は献立を管理栄養士に確認してもらっている。水分量のチェックはフローシートで個々の必要量を確認している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	医療法人 健和会の中で感染対策委員会があり、所属しており、会議の参加をしている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	器具やシンクの管理は、感染対策委員会での取り決めに従い実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は親しみがわくように、季節の花を植えている。玄関を出たところは、常に洗浄してスリッパで出られるように工夫している。玄関先には椅子を置いて座ってくつろげるようにしている。日光浴の場でもある。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の場は自然な感じになるように、季節感のある飾りやお花を生けている。レースのカーテンは必要時以外には、出来るだけ開けて、外が見えるように光を遮らないように努めている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングは全員が座れるスペースを設け、好きなところに好きなようにすわれるように配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家族が思い思いに工夫できるよう十にしている。また、出来ない家族には相談助言を行い、利用者が居心地が良い状況を日頃の言動から考えて配慮している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日14時の室温湿度のチェックにより適切な温度調整を行っている。出来るだけ自然の空気が入るように解放している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	てすり付けて出来るだけ1人で行動しても大丈夫な状況に環境整備を行っている。例えば動く物は置かないで持っても安定している物を置く。伝い歩きが出来るように空間の配慮をしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	排泄など、日常生活の中で、出来ることは出来るだけ自分で出来るように見守り、自分で出来る支援をすることを基本としている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	廊下から外には自由に出入れるように手すりや階段を付けている。花を自由に取りに行き生けている。		

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者に対しては、残された力を出して自分の力で暮らしていける支援に努めている。職員個々が自分の能力を出して、自分に何が出来るかを考えながら勤務している。職